

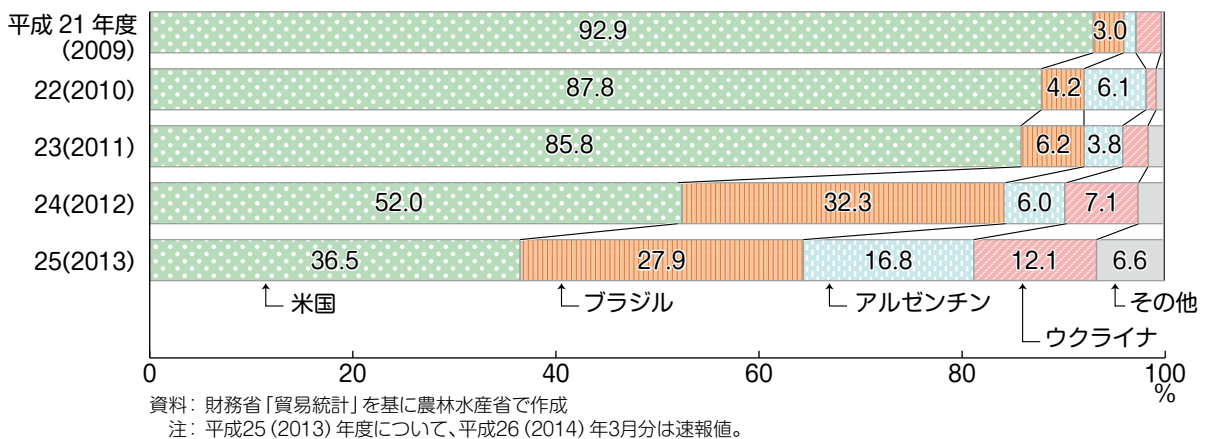
## (2) 食料安全保障の確立に向けた取組

### ア 飼肥料等の調達の安定化・多元化の取組

#### (飼料穀物の安定供給の確保)

我が国は、飼料穀物（とうもろこし、こうりゃん等）の多くを輸入に依存しており、その主な調達先は、米国、ブラジル、アルゼンチンとなっています。平成23（2011）年度まではとうもろこしの輸入量の9割を米国が占めていましたが、平成24（2012）年度の米国における高温・乾燥の影響に伴う生産量の減少により、とうもろこしの調達先は米国から南米諸国やウクライナ等に急速に移行しました（図1-1-11）。平成25（2013）年度においては、調達先の移行がさらに進行し、南米諸国の割合が上昇しています。特にアルゼンチンは6.0%から16.8%まで10.8ポイントと大きく上昇する一方、他の輸入相手国（米国、ブラジル）の割合は低下しています。しかしながら、南米諸国等における調達先においては、脆弱な輸出インフラ等に起因する輸送遅延等のリスクが懸念されています。

図1-1-11 飼料用とうもろこしの調達先割合の推移



#### (肥料の安定供給の確保)

肥料は、農業生産に不可欠な生産資材であり、肥料の安定調達は重要な課題です。

我が国は化学肥料の原料となる尿素、りん鉱石や塩化加里のほぼ全てを輸入に依存しており、その調達先は特定の国に依存している状況にあります（図1-1-12）。

一方、尿素、りん鉱石や塩化加里の輸入単価は、平成19（2007）年度から平成20（2008）年度にかけて原料の需給が逼迫したことから、一時的に価格が高騰し、その後は下落に転じましたが、近年の水準は、平成19（2007）年以前に比べて高い傾向にあります（図1-1-13）。将来的には、世界人口の増加に対応するため、農業生産の拡大等が必要であり、肥料需要がさらに増大すると見込まれており、肥料原料の安定供給の確保に加えて適正かつ効率的な施肥が重要と考えられます。このため、国内の未利用又は低利用資源を肥料に有効利用する取組、施肥の改善に向けた取組を推進しています。

図1-1-12 肥料原料の輸入相手国別内訳  
(平成25(2013)年)

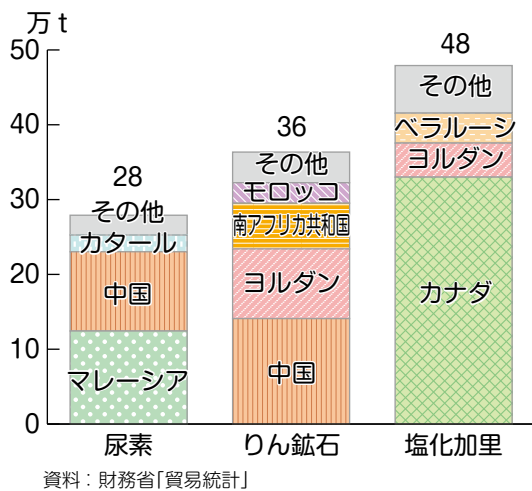
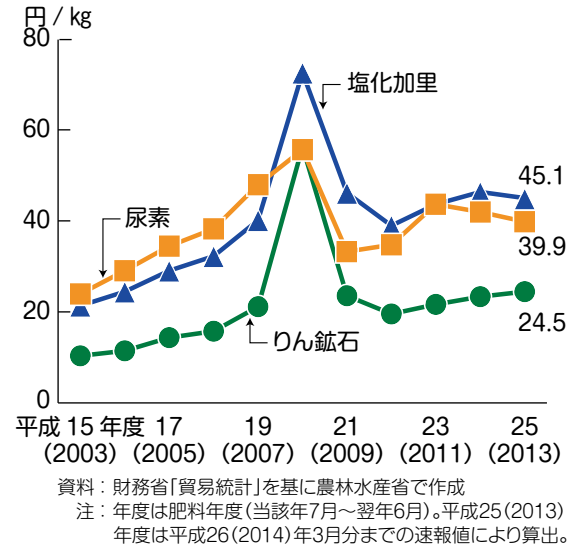


図1-1-13 肥料原料の輸入単価の推移



### (農業投資に向けた取組)

平成19(2007)年から平成20(2008)年の世界的な食料価格高騰を契機として、開発途上国への大規模な国際農業投資が急増し、一部が「農地争奪」等として報じられたことから、国際社会の注目を集めました。これに対し、我が国は、平成21(2009)年7月のG8ラクイラ・サミット(イタリア)において、被投資国、小農を含めた現地の人々、投資家の3者が利益を得られるよう、責任ある農業投資の促進を提案し、この提案を受けFAO、国際農業開発基金(IFAD)、国連貿易開発会議(UNCTAD)、世界銀行の4つの国際機関により、「責任ある農業投資原則(PRAI<sup>1</sup>)」が策定されました(図1-1-14)。また、FAO、国連世界食糧計画(WFP)、IFADの3つの国際機関が運営する世界食料安全保障委員会(CFS)において、特に途上国における脆弱な土地所有管理が社会的不安をもたらす、投資や経済成長の抑制を招いていることを踏まえ、その改善を図るため、平成24(2012)年5月に「国家の食料安全保障の文脈における土地所有、漁業、森林に関する責任あるガバナンスのための任意ガイドライン(VGGT<sup>2</sup>)」が策定されました。平成24(2012)年10月からは、CFSにおいて、PRAIとVGGTを踏まえ、より広範な関係者の合意を得た責任ある農業投資のための原則を策定する議論が開始されています。

我が国は、食料輸入の多角化・安定化を図るため、民間企業の海外投資の促進のための支援を実施しており、本邦企業による穀物等の集荷・販売能力の強化や現地での農業生産に取り組む動きがみられます。適切な農業投資が行われるためにも、CFSでの議論に積極的に参加するとともに、PRAIを策定した4つの国際機関が平成25(2013)年から実施している「責任ある農業投資に関する未来志向の調査研究」への財政支援を行うなど、責任ある農業投資に関する取組に引き続き積極的な貢献を行っています。

1 PRAIは、Principles for Responsible Agricultural Investmentの略。

2 VGGTは、Voluntary Guidelines on the Responsible Governance of Tenure of Land, Fisheries and Forests in the Context of National Food Securityの略。

図1-1-14 PRAIの7つの原則



資料：農林水産省作成

### (農林水産分野における国際協力)

今後、世界人口の増加等により、中長期的には食料需給の逼迫<sup>ひっばく</sup>が見込まれる中、平成23(2011)年6月のG20農業大臣会合(フランス)や平成24(2012)年5月の第2回APEC食料安全保障担当大臣会合(ロシア)等で、持続可能な農業生産の拡大や多様な環境条件への配慮等、食料安全保障の確保に関する合意がなされました。

このような中、我が国は、飢餓・貧困対策への貢献や気候変動や越境性感染症等地球規模の課題への適切な対応を重点分野として、開発途上国における農業等に関する基礎的調査や技術開発・人材育成、農林水産分野の国際機関への拠出等を通じた国際協力を進めています。具体的な取組の一つとして、アフリカにおける食料・栄養不足の改善及び農家・加工業者・消費者の生活水準の向上に貢献するため、豆類・いも類の生産性向上を目指した研究開発やその成果の普及に向けた取組に対する支援を行っています。ブルキナファソの中央部で行っていたササゲ(豆類)新品種の普及支援を、環境の異なる同国北部、南部地域も対象に大規模化を図り進めることとしており、同国国民の栄養不足や貧困等の解決の糸口につながることを期待されます。

また、東アジア地域における大規模災害等の緊急時に備えるため、平成24(2012)年7月に発効した「東南アジア諸国連合及び協力3か国における緊急事態のための米の備蓄制度に関する協定(APTERR<sup>1</sup>協定)」に基づき、ASEAN+3<sup>2</sup>による緊急米備蓄体制の確立に向けた取組を行っています。同協定に基づく現物備蓄事業において、我が国が拠出を行うラオス国内に先行的に備蓄していた現物備蓄米400tを活用し、平成25(2013)年10月には、干ばつ等被害に対して177tの放出、平成26(2014)年1月には、洪水被害に対して223tの放出による支援措置をそれぞれ行いました。

また、平成25(2013)年11月には、同協定に基づく現物備蓄事業において、フィリピン中部のレイテ島付近において発生した台風被害に対し、我が国が拠出した現物備蓄事業の拠出金を活用し、フィリピン政府に50万ドル相当の米の現物支援を決定しました。

1 APTERRは、ASEAN Plus Three Emergency Rice Reserveの略。

2 参加国はASEAN及び日本、中国、韓国。ASEANについては、[用語の解説]を参照。

## イ 国内での対応

### (国による食料等の備蓄の取組)

我が国は、国内の生産量の減少や海外における不測の事態の発生による供給途絶等に備えるため、食料等の備蓄を行っています。

米については、国内の生産量の減少により供給が不足する事態に備え、毎年6月末時点での在庫量100万t程度を適正備蓄水準<sup>1</sup>として、必要な数量の備蓄を行っています。

食糧用小麦については、海外からの輸入が途絶した場合に備え、実需者において外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分(うち1.8か月分は国による助成)の備蓄を行っています。

飼料穀物については、調達先の多元化に伴う輸送リスク等に対応できるよう、とうもろこし・こうりゃんの備蓄量を平成25(2013)年度から35万tから60万tに引き上げて備蓄を行っています。

### (緊急事態食料安全保障指針に基づく取組)

食料の多くを輸入に頼っている我が国においては、国内外の様々な要因によって食料供給の混乱が生じる可能性があり、過去には国内生産の減少や輸入の減少・途絶等により、我が国の食料供給に影響を及ぼす事態が発生しています。このことを踏まえ、農林水産省では、平成24(2012)年9月に食料の輸入途絶等の緊急要因により食料供給に影響が及ぶおそれのある事態に政府として講ずべき対策の内容等を示した、「緊急事態食料安全保障指針」を策定しています。同指針では、不測時の食料安全保障対策として、事態の深刻度(レベル)に応じ、国民が最低限度必要とする食料の供給の確保が図られるよう、対策を整理しています(図1-1-15)。

また、平成26(2014)年2月には、同指針に基づき、新型インフルエンザの発生や災害等によりライフラインが停止する緊急事態が発生した場合にも対応できるよう、家庭における備蓄食料品リストや備蓄の取り組み方等を示した「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」を策定しました(図1-1-16)。

図1-1-15 緊急時のレベルの類型と対策の概要

#### レベル0 レベル1以降の事態に発展するおそれがある場合

- ・食料供給の見通しに関する情報収集・分析・提供
- ・備蓄の活用と輸入先の多角化、代替品の輸入
- ・規格外品の出荷、廃棄の抑制などの関係者の取組の促進
- ・食料の価格動向などの調査・監視

#### レベル1 特定の品目の供給が、平時の供給を2割以上下回ると予測される場合を目安

- ・緊急の増産(国民生活安定緊急措置法)
- ・生産資材(種子・種苗、肥料、農薬)の確保(国民生活安定緊急措置法)
- ・買占めの是正など適正な流通の確保(買占め等防止法など)
- ・標準価格の設定などの価格の規制(国民生活安定緊急措置法)

#### レベル2 1人1日当たり供給熱量が2,000kcalを下回ると予測される場合を目安

- ・熱量効率が高い作物などへの生産の転換(国民生活安定緊急措置法)
- ・既存農地以外の土地の利用
- ・食料の割当て・配給及び物価統制(食糧法など)
- ・石油の供給の確保(石油需給適正化法)

資料：農林水産省「緊急事態食料安全保障指針」

<sup>1</sup> 10年に1度の不作や通常程度の不作が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準。

図1-1-16 緊急時に備えた主な備蓄食料品等

【水】

飲料水として、1人当たり  
1日1L、調理等に使用する  
水を含めると、3L程度。



【カセットコンロ】

熱源は、食品を温めたり、  
簡単な調理に必要。



【米】〈エネルギー及び炭水化物の確保〉

備蓄の柱！  
2kgの米が1袋あると、  
水と熱源があれば、約27食分。  
(1食=0.5合=75gとした場合)



【缶詰】〈たんぱく質の確保〉

缶詰は調理不要で、その  
まま食べられるものを選  
ぶと便利。



普段使いの食品を多めに、  
これが備蓄！

〈普段使いの食品を「買い置き」しましょう〉

普段使いの食料品等の「買い置き」も有効な備蓄方法の一つです。米など、通常購入している保存性の良い食料品を少し多めに「買い置き」しましょう。

〈消費分の買い足しをしましょう〉

賞味期限を考えながら計画的に消費し、消費した分は新たに購入するようにしましょう。

資料：農林水産省「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」

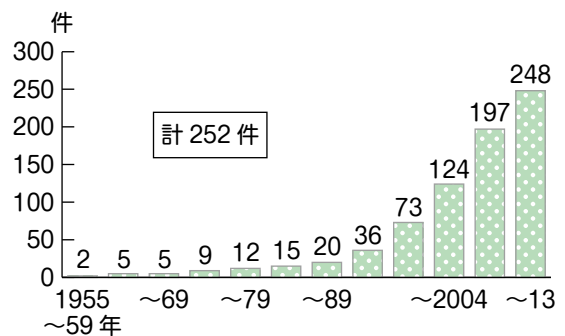
### (3) 農産物貿易交渉の状況

#### (EPA/FTA交渉等の取組)

我が国は、平成26(2014)年3月末現在で13の国・地域とEPAを締結しています。WTO<sup>1</sup>ドーハ・ラウンド交渉の行方が不透明な中、世界的にEPA/FTA網が拡大を続けています(図1-1-17)。

このような中、平成25(2013)年6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」では、「グローバルな経済活動のベースとなる経済連携を推進し、貿易のFTA比率<sup>2</sup>を現在の19%から、2018年までに70%に高める」こととしています。このため、特に、TPP協定交渉に積極的に取り組むことにより、アジア太平洋地域の新たなルールを作り上げていくとともに、RCEP<sup>3</sup>(東アジア地域包括的経済連携)や日中韓FTAといった広域経済連携と併せ、その先にあるより大きな構想であるFTAAP<sup>4</sup>(アジア太平洋自由貿易圏)のルールづくりのたたき台としていくことが重要です。また、上記の取組に加え日EU・EPA等に同時並行で取り組むこととし、「各経済連携が相互に刺激し合い、活性化す

図1-1-17 世界のEPA/FTA締結件数の推移(累積)



資料：(独)日本貿易振興機構「ジェトロ世界貿易投資報告2013」を基に農林水産省で作成

注：1) WTO 通報ベースの地域貿易協定の件数を発効月ごとに集計。

2) 平成25(2013)年7月末現在。

3) 合計件数には発効年不明の4件を含む。

1 [用語の解説]を参照。

2 FTA 比率は、FTA 相手国(発効国及び署名済国)との貿易額が貿易総額に占める割合。

3 RCEPは、Regional Comprehensive Economic Partnershipの略。ASEANとFTAパートナー諸国によるEPAを目指すもの。FTAパートナー諸国は、日本、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランドの6か国。

4 FTAAPは、Free Trade Area of the Asia-Pacificの略。平成22(2010)年11月に横浜で開催されたAPEC首脳会議で、「アジア太平洋自由貿易圏(FTAAP)への道筋」が合意され、「FTAAPは、中でもASEAN+3、ASEAN+6及び、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉といった現在進行している地域的な取組を基礎として更に発展させることにより、包括的な自由貿易協定として追求されるべき」とされた。